

—信濃中学校—

(右)バスケットボール部。(下)バドミントン部。区内の中学校では約7割の生徒が体育、文化系の部活動に参加しています。



特集 地域と学校が一緒になって

子どもはいつも

学んでいる

子どもたちは、さまざまな体験をしながら成長しています。将来を担う子どもたちが、よりのびのびと学校生活を送れるように、地域の人たちも参加しているのをご存じでしょうか。今月は、地域と学校が一緒になって取り組んでいる活動を紹介します。



部活動に 地域の人材を

放課後の体育館ではバスケットボール部の練習が始まり、ドリブルの音や部員の掛け声が響いています。練習を指示し、時にはゲームに加わりながら指導しているのは、外部指導者の浜田哲央さんです。ここ信濃中学校では、バスケットボールのほか、サッカーやバドミントン、剣道など八つの部活動で外部指導者が教職員と共に生徒の指導に当たっています。同校では、生徒たちの希望する部活動を設立・維持し、教員の負担を軽減するとともに、よりきめ細やかな指導ができるという面から、

PTAの部活動推進委員会が中心となり、現在は、地域の人や生徒の父兄など九人が外部指導者として活動しています。

「教えるというより、自分が楽しんでいきます」と笑う浜田さんは、仕事の合間を縫って放課後や、土、日曜日など月に十日ほど練習に参加。練習中は休む間もなく、男女合わせて約四十人の部員を指導しています。中学高校とバスケットボールを続けていた浜田さんは「バスケットボールの楽しさを知って好きになってほしい。部活動を通して学ぶことは、将来、社会に出て生活していく上で必ず役に立ちます」と話します。地域の人たちの協力で、生徒たちがよりはたつと活動できます。



子どもたちを 地域で見守る



時間に余裕があれば早く来て、個別に指導することもあるそうです（浜田哲央さん）。

学校行事に地域の人たちが参加したり、清掃活動と一緒に行動したりするなど、さまざまな形で子どもたちと地域の人たちはかかわっています。授業の中で、お年寄りから昔の生活の様子を話してもらったりすることは貴重な経験になるでしょう。子どもたちが安心して学校生活を送れるように見守ることも大切です。大谷地東小学校では、今年六月、通学路にフラワーポットを設置しました。子どもたちの通学路を花でいっぱいしようという同校PTAの提案に大谷地町内会などが協力。

